

小アジアでの福音の前進

2022年10月30日

使徒の働き 14章1～18節

序：パウロの第一次伝道旅行（バルナバが同労者）

シリアのアンティオキア ⇒ キプロス ⇒ 小アジア（ピシディアのアンティオキア ⇒ イコニオン ⇒ リステラ ⇒ ……

I. イコニオンで

アンティオキアと同じ事が起こった

ユダヤ人の会堂

聴衆はユダヤ人と異邦人

信じようとしないうダヤ人の妨害（異邦人を扇動、悪意を抱かせようとした）

パウロとバルナバはそこに長く滞在（大胆な宣教、しるしと不思議）

神による 恵みのことばが真実である
との証明

結果：(1)町の人々が二分（ユダヤ人に組する / 使徒たちに組する）

(2)しかし、反対者は（ユダヤ人+異邦人+指導者）

二人を石打ちにしようとした

(3)二人は難を逃れ、別の地（リステラ デルベ）へ移動

福音の宣教を継続

II. リステラで

(1) 生まれつきの足の萎えた人のいやし

cf. 美しの門にいた男、

一度も歩いたことがない ⇒ 歩けるなら神の御業

パウロの話に聞き入っていた

①癒されるにふさわしい信仰＝イエス・キリストは救い主

②パウロの命令：自分の足で立て

③彼は跳び上がり、歩き続けた

④群衆の狂喜

(2) 二人を神々として礼拝しようとした（神々の顕現・人間のかたち）

バルナバ：ゼウス パウロ：ヘルメス

ゼウス神殿の祭司が雄牛や花輪を持って来て、民とともにささげようとした

- (3) 二人は彼らに抗議し、止めさせる
衣を裂く 短い説教
- (4) 短い説教の内容
- ①神は神／人は人 (人間が神に成り上がったり、奉られるのは偶像化)
 - ②二人の使命：異邦人が虚しい偶像 ⇒ 天地万物の創造者・主権者に帰る
人間が作った神々 人間をお造りになった唯一神
それには、福音だけが、解決の道、その福音の宣教者
 - ③神の恵み： 諸国民が各々の道を歩むことを、今までは許しておられた
神の証し：天からの雨、収穫の季節、食物と喜びで満たす
神は在られ、恵み深いお方であることを示される
マタイ 5・45
- (5) やっとのことで、群衆が自分たちにいけにえをささげるのを止めさせた

Ⅲ. 結び

- (1) 福音は必ず、人々を二分する (賛否が激しく対立)
- (2) 妨害・迫害にもかかわらず、絶えず前進する
- (3) ユダヤ人会堂でユダヤ人にも異邦人にも、宣べ伝える
- (4) 語る切口はユダヤ人と異邦人では違っている
福音を宣べ伝える相手を知り、神の何をどう伝えるか、聖霊に導いていただく
- (5) 偶像から真の神に立ち帰ることが目的
- (6) 人間が神格化されるところに偶像礼拝の芽が出る
- (7) 日本では唯一神ではなく凡神論、人間に関しては性善説、救いに関しては信仰によるより行いによるとする・・・念頭におくこと
- (8) 肝心なことには、あいまいでない明確なことばや態度が必要
でなければ、自分も他の人も損なってしまう
- (9) 状況が困難であっても、自分が弱くても、宣教の責任者・主権者は聖霊なる神であられる ∴ 従う者を通して、主はご計画を成就される
そこに、私たちの希望と平安がある